

命を守り、日本を守るため
立志編



医師

たぶち正文の挑戦

私、たぶち正文は
1958年(昭和33年)
6月25日

岡山県岡山市で、
男ばかりの3人兄弟の
3番目として生まれた

はいはい、
どうしたん？

祖父母と両親、
兄2人と暮らす家は、
第二次世界大戦で
貧困になっていた

あまり裕福な
家庭ではなく
生活の為、
家で鶏を飼っていた

卵買って
ください

幼いころから
近所の商店を周り、
卵を売る手伝いを
していたのは、
今でも
よく覚えている

貧しい！
貧しくとも
プライドをもって！！

人として
正しくなること

もっぱら祖父母、
両親には
厳しく育てられた

うん！

大変なこと多かったけど、
長兄のおかげで
3人5才だった私は、

また長兄との
2人ピンポン野球の中で
根性を鍛えられた

正文、
隣へ行った
ピンポンボール
取りに行け

忍耐強くなり
根性がついた

その一方で、得意な物理・数学を中心に勉強も頑張った

小学校では、スポーツ少年団でソフトボール
ポジションは右ウイング。だけど、骨折をして退部。その後陸上部へ

ポジションはセカンド。5年生～6年生の間、連戦連勝。負けたのは1回のみ(準優勝)

時間が惜しくて毎日猛ダッシュも運動能力が高くなった
当時の記録→垂直飛び90cm 50メートル6.0秒

そして、高校は新しくできたばかりの総合選抜の学校に進学し、毎日8キロの道のりを自転車に通った。もちろん、自転車は兄のお下がりの中古だ
雨の日は、雨が降って、遠くで大変だった

文化面では、1年生から3期連続生徒会長をする。生徒会長選挙では、わずか1票の差で勝利をしたこともあった
3期連続選出の陰では日頃から目立ため、ように率先して掃除用具の片付けなどを行っていた

数学と物理が得意だし、このまま大学に進学しよう
お金のことも考えれば、国立大学(※)を受験しよう
※東京大学を

また将棋のとりこに!!
なんと、2回も県の高校将棋名人になった!
名人2回、全国ベスト8、ベスト4の成績
そして、高校3年生

※当時の国立大学は、学費16万円/年。私立は50万円くらい

そうして、
入試に挑むも
受験当日



まさかの
風邪と熱発で
不合格!! 1浪

翌年、無事に念願の
東京大学理科Ⅲ類合格



家賃2万3千円の
間借り生活に外食

両親の精いっぱいの
仕送りとアルバイトで
月7万円の生活!!

!!今から思えば食生活の
貧しさからだろうか

私はまだ20歳にも
かかわらず、
健康を害してしまっ
た



え...?
血便...?

初めての大腸検査は、
それはつらかった!!

いたたた
たあああ!



検査、こんなに
痛いなんて!!
つらいなあ!!

死ぬほどつらい検査の
結果は、潰瘍性大腸炎。
安倍元首相と同じ病だった

ちよつとやつかしいな
病気になるてしまった。
ずっと薬をのむ生活...



この病気がつて本当に大変。
食事が悪かったり、
ストレスがかかると
すぐに血便と下痢

病気が悪くなると
将棋が弱くなり、
病気が良くなると
将棋は負けなかった



この病気がきっかけとなり、
私は自分の病気を研究して
治療法を開発することを
固く決意した



大学では勉強の傍ら、
将棋部レギュラー
(主将も1回務めた)
そうして、
医師国家試験
にも合格

団体戦全国優勝3回、
東大名人2回



東京大学医学部
医学科を卒業後、
内科研修医として
東京大学医学部
付属病院にて
勤務することになる

大学附属病院



医師として働く傍ら、
ずっと思っていたのが…
内視鏡検査…
どうにか
痛みを少なく
できないだろうか…

…といふことだ



自分が検査した時の
死ぬほどの痛み
今もその検査を
しなくてはならない
患者さんを思うと
胸が締め付けられた

どうにかしたい…

その気持ち
技術向上に費やした



そうして、
医師になって3年目、
ついに私は
「痛みのない
内視鏡挿入法」
を開発した

やった…!

まったく
痛くないですね。
先生

私の開発したこの検査方法を
伝承した先生は、
大腸分野ではみな名医と
いわれている

順調にキャリアを重ね、
国家公務員等共済組合
東京共済病院内科では、
同内科医長を拝命

中目黒消化器
クリニック

その後、中目黒消化器
クリニックを
夜間開業した

外科の教授から
東大講師にと依頼された

その噂を聞いた
やんごとなき方々も
私の内視鏡検査を三所望

クリニックでは深夜まで
急患のお客様に対応

切除したポリプの数は
12万個以上とおそらく
日本でも1番になるころ...

私は、消化器内視鏡の分野では
日本の第一人者として
認識されるようになった

VIPの
プライベートクリニック
にも呼ばれるように
なるほどで、
医者キャリアとしては
順風満帆だ...

サイトウさん、
この病気はね!

なるほど。
たぶち先生は時間をかけて
じっくり説明して
くれるから助かります

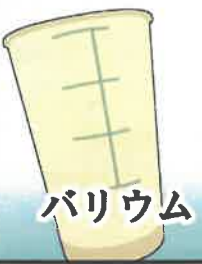
私は、ふんぞり返った
医師ではなく、
「一流の技術を持つ、
人に尽くすお医者さん」
を目指していたし、
そうなるようにしていた

だから、
進んだ医療が
なかなか
採用されない
日本の医療制度に、
大いに疑問を
感じていた

海外で使える
難病の治療薬が
日本では使えない

※大腸ポリープは切るべきなのに、社会的圧力のために小さいものは残してもよいという異説が流れる

ポリープ



バリウム

※内視鏡の方がはるかにがんの発見率が高いがいまだにバリウムで実施するという遅れた健康診断が法律で守られている!?

…など
医療の問題が日本では山積みだ

※田淵正文 著書(アスカ出版社)



その思いを、行政との会議でぶつけた
しかし、政治的なしがらみのために、効果のある医療検査法が採用されない



一人の医師として行動するだけじゃ、医療は中々変わらない…でもこの問題を克服しなければ患者を救うことはできない!!

そのことを私は知った

ガンで死なないためにから抜粋



だから、日本国民の命を救うためには、しがらみにしばられない是々非々の政治に変えなければ…!!

私、たぶち正文は「命を守る日本を守る」ために国民に訴える!!



世界トップレベルの技術を用いて
 命を救えるガン予防プログラム

ガンで
 死なない
 ために

私は、
 (ガンで亡くなる方の
 2人に1人は救える!)
 と考えています

田淵正文



クリニックにて取扱い中です。
 お電話にてお問合せ下さい。

医療法人社団 至楽正会
中目黒消化器クリニック
 院長 田淵正文
 〒153-0043 東京都目黒区東山1-10-13
 TEL 03-3714-0422

